

2024 年度 学校法人 三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 武藤洋和・渡邊 慎也

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

前年度重点施策振り返り

学校運営では、5年後にむけた医療現場と保育・介護現場に必要な学校・学生の育成を掲げ社会に必要とされる学校の実現に向けた取り組みを実施。

【取り組み】

- ・教員自ら現場へ足を運び、現場で求められていることを把握し学生へ還元。
- ・相手のこうして欲しいを理解し、考え動ける学生の育成→技能と心の調和の浸透に向けた取り組み。
- ・検定合格率向上、退学数低減を目指し、タイムリーかつ納得感のある教務を目指す。

【振り返り】

- ・現場に足を運ぶ回数が少なかった。引き続き今年度も、訪問を強化していく。
- ・挨拶等自ら実施できる学生が増えていた。引き続き技能と心の調和を掲げ考え動ける学生の育成を行っていく。
- ・全体の退学率が昨年度から大幅に減少→学生にとっていつでも相談しやすく過ごしやすい環境作りができており教職員との関係性構築が良好であった。
- ・検定合格率向上はすべての検定ではできなかった。
- ・学生間のモチベーションの差による授業意欲の低下→引き続き規律遵守を徹底する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

(評価項目) (評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・学科ごとの教育目標、育成人材像について認識を統一する。

② 今後の改善方策

- ・変化する業界のニーズを把握するために、実習巡回や卒業生訪問時のヒアリングはもちろんのこと、実習報告会に出席いただいた際に指導者に直接ご意見をいただく機会を設ける。
- ・実習巡回、卒業生訪問を強化し、現場が求める事務職の資質について理解及び指導を深める。

③ 特記事項

- ・2026年度に向けて、社会のニーズに合わせた学科編成を行っている。
- ・新入生の保護者向けにオンラインではなく、オンデマンド保護者説明会を実施し学校の教育理念・人材育成像・学科ごとのスケジュール・奨学金関係についてオンデマンドにすることで期間中であれば、視聴できるようにした。

(2) 学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・業界や地域社会との良好な関係を継続して築けるような仕組みづくり。
- ・運営組織や意思決定機能を引き続き明確化できているが、さらなる職員への共有の強化が必要。
- ・ICTをとりいれた業務の効率化。

② 今後の改善方策

- ・業界の魅力を伝えるような活動や地域における活動には担当教員を決め積極的に参加していく体制づくり。
- ・規則等についてはいつでも確認できるように共有し、わかりやすく保管しておく。
- ・学生からの回収物等紙ベースのものをペーパーレス化していく。

③ 特記事項

（診療情報管理士科）

- ・医療機関で働かれている方々の勉強会の場として教室を提供し、学生も参加させていただいた。

（介護福祉科）

- ・福岡県かいごつながるプロジェクト(リライフ)・福岡市介護フェスタにおいて学生と共に参加。
- ・博多区におけるラン供には参加できなかったため、2025年度は博多区の行事にも参加していく。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
教員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・授業アンケートや学校生活アンケートの結果を学校全体として振り返りを行っているが、教員個々の振り返りはフィードバックまでにとどまっている。各教員の抱える課題の面談等を行うことで整理し教員を孤独にせず、教育力全体を底上げする。
- ・正解がない世の中で「なぜ」が求められる時代。正解がない問題に直面した際にどう向き合うかどう考えるのかを教育現場で対応する力・適応する力を育成できるように指導する。

② 今後の改善方策

- ・カリキュラムの体系的な説明を年度初めに学生に行い、必修科目や選択科目の位置づけを説明し選択科目の履修率をあげる。
- ・授業アンケートや学校生活アンケートに対し、学科ごとの振り返りを実施。各科目や教員の抱える課題を整理し、解決や改善を学科として行う。
- ・教員の業界理解促進の為に短期間でもよいのでインターンもしくは施設や病院見学などを取り入れる。

③ 特記事項

(介護福祉科)

- ・年2回のシラバス会議で課題や指導上の悩みを共有し、解決に向けて話し合いの場を設けている。
- ・今の現場を理解する為公休日を活用し、教員自身が現場経験を積んでいる。
- ・産学連携を強化し、福岡市認知症フレンドリーセンターや博多区認知症初期支援メンバー、盲ろうあ協会との連携、パラマウントベッドや車いす松永製作所との企業連携など積極的に実施している。

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・卒業後のキャリア形成への効果の把握方法を増やし教育活動に活用する。

② 今後の改善方策

- ・卒業生の卒業後の社会的評価の把握について、客観的に確認できるツールの作成や情報共有。
- ・国家試験、認定試験不合格者へのサポート体制の構築。

③ 特記事項

- ・学校全体の退学率は前年度に比べ大幅に改善された。

(5)学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3

中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・卒業生への就職支援体制の強化

② 今後の改善方策

- ・学校 HP における卒業生の方へのページを活用し、中途採用の求人情報を掲載する。
- ・中途退学者への単位履修証明の確認を行い、学びの途中であったとしても、在籍して努力したものを形で伝えることで、それ以降の自信や新しい進学先への単位互換に活用できる。

③ 特記事項

- ・学生の就職先への理解促進の為、施設種別ごとの就職ガイダンスを実施し、業界内就職に繋がった。
- ・校内カウンセラーをオンラインにすることでいつでも相談可能となった。
- ・同窓会を実施することで、卒業後の活躍や悩みをヒアリングし、相談する機会を設けた。

(介護福祉科)

- ・訓練生受け入れのための教育体制の整備。
- ・教育訓練給付金の SNS 上の告知を行い学び直しへのサポート体制を整備。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・防災マニュアルだけでなく防犯マニュアルの整備。
- ・新規実習先の開拓、今の学生理解をすすめていく。

② 今後の改善方策

- ・防災マニュアル・防犯マニュアルを整備し、年度初めの全職員会議で認識を統一する。
- ・現場の方へ実習内容と事前に学生情報を共有することで実習先とのズレをなくしていく。

③ 特記事項

- ・オンラインで授業を視聴できる環境を準備した。

(介護福祉科)

- ・学生の居住地の範囲が拡大したことで実習施設の拡充を行った。また、実習施設との十分な打ち合わせによる

学生課題の共有により、学生にとって効果的な実習指導を行うことができている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学生募集活動において、教育成果を正確にわかりやすく伝えていきたい。

② 今後の改善方策

・新学科の募集が開始。入学後に新たな学びを選択できる環境を設定できた。

③ 特記事項

・留学生の入学者数が増加した。引き続き積極的に広報活動に取り組んでいく。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

② 今後の改善方策

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームペー

ジ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの順守について継続して徹底していく必要がある。
- ・広報等での SNS の発信内容には十分留意する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・現時点で問題になるようなことは起きていないが、継続して啓蒙活動を行必要がある。

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・ボランティアの機会の創出と学生への告知の強化

② 今後の改善方策

- ・随時ボランティア情報を掲示できるようなスペースを就職指導室に設ける。

③ 特記事項

(診療情報管理士科)

・医療機関で働かれている方々の勉強会会場として教室を提供し学生も参加させていただいている。

(介護福祉科)

・コロナが明け施設のボランティア募集が増加。学生は主体的に参加することができた。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校として、卒業生を定期的に呼び、気軽に交流できる機会があると良い。

介護業界以外にも資格が多いため、教員も病院や介護、保育業界についての勉強をし、理解度を深めていく。本
日様々なご意見やご提案のヒントを形にしてより良い学校運営ができるよう努めていく。